

当院にて腱板断裂で入院・手術をする患者が持つ不安についての考察

沼隈病院

○泉谷 紫織 佐藤 美帆 橋本 潤

【研究動機と目的】当院では 2015 年度より腱板断裂患者に対し鏡視下腱板修復術が開始となりクリニカルパスも使用開始した。腱板断裂患者は ADL が自立し社会的役割を担っている人が多く、自立した患者が長期間に亘って治療する中で持つ不安を調査する事で、患者のニーズに寄り添った看護ができるのではないかと考え、腱板断裂患者が入院・手術する事において抱く不安とその時期についての調査・研究を行った。【調査・分析方法】対象患者に不安に関するアンケートを送付、記入後返送していただく。回収したアンケートは質問項目ごとに分類、各質問についての回答率や患者の個別性を踏まえて検証を行った。

【結果】患者 12 名を対象に行い回収率は 12 名中 11 名だった。治療過程で不安を持った患者は 6 名だった。複数回答可とし不安があった時期は術直後が 1 人、リハビリ期 3 人、退院後 4 人だった。内容は身体的不安が 4 人、社会的不安が 1 人、精神的不安が 1 人、その他が 1 人だった。不安を解決できたのは 2 人だった。【考察・結論】データから患者は身体的不安を持つことが多く、時期はリハビリ期から退院後にかけて不安を持つ可能性が高い。不安を解決した 2 人はリハビリの効果を実感する事で不安が解決したとのデータから治療スケジュールと現治療段階の理解度を高める看護介入が求められるのではないかと考える。入院中である回復期に不安の有無を患者に聞き、傾聴や不安解決のための指導をする事で不安を軽減した状態で退院する事ができるのではとないか考える。今後も調査を継続し、数的根拠を得ると同時に不安を持たなかった理由の調査も行い、不安解消・予防観点からの研調査を進める事が重要である。

赤字の部分は自己効力感をわかりやすい表現に変えてみた

# 当院にて腱板断裂で入院・手術する患者の持つ不安について

社会医療法人 社団 沼南会 沼隈病院  
泉谷 紫織



Shounankai Numakuma Hospital Fukuyama-Hiroshima Japan 2017



## はじめに

当院にて2015年度鏡視下腱板修復術開始。

腱板断裂患者は・・・。

ADLが自立していて社会的役割を担っている場合が多い

社会的に自立した患者が手術を受け長期間に亘って入院することで持つ不安を調査・分析することは、より患者のニーズに寄り添った看護につながると考え、研究に取り組むこととした。

Shounankai Numakuma Hospital Fukuyama-Hiroshima Japan 2017



---

## 研究目的

腱板断裂患者が入院・手術する事で患者が抱く不安とその時期についての調査

## 研究期間

平成28年7月～平成29年3月

## 研究対象

平成27年6月～平成28年8月期間内で当院に入院され、鏡視下腱板修復術を受けた患者



---

## 研究方法

- ・入院中の患者には院内にて説明し同意を得た上で調査用アンケートを記入してもらう。
- ・退院した患者にはアンケートと返信用封筒を送付し、記入後郵送してもらう。
- ・回収後、分析を行う。



## 用語定義

- 1)入院から術前:入院し手術を受けるまで
- 2)急性期:手術後～抜糸まで(術後14日目)
- 3)回復期:抜糸(術後14日目)から退院まで
- 4)退院後:退院した後



## 不安内容7項目

- 治療経過
- 疼痛
- 動作制限
- 以前と今後の動作の違い
- リハビリの進行
- 経済
- 社会的役割



## 倫理的配慮

倫理委員会の承認を得て研究に取り組む。

また、対象患者に研究の趣旨を説明後、当研究以外では使用しないこと、いつでも研究の拒否は可能であることを伝え、同意を得た上で研究に取り組む。

収集した情報の取り扱い及び処理には細心の注意を払い、個人情報の尊重に十分な配慮を行うことを厳守する。研究終了後には収集した電子データの破棄と書類データの裁断処理を行う事とする。



## 結果

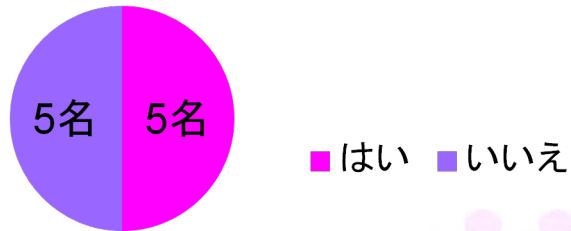
アンケート回収人数  
12名中11名

有効回答人数  
11名中10名



あなたが腱版断裂と診断され入院をし、手術を受け退院され治癒するまでの期間で不安だと思う時がありましたか？

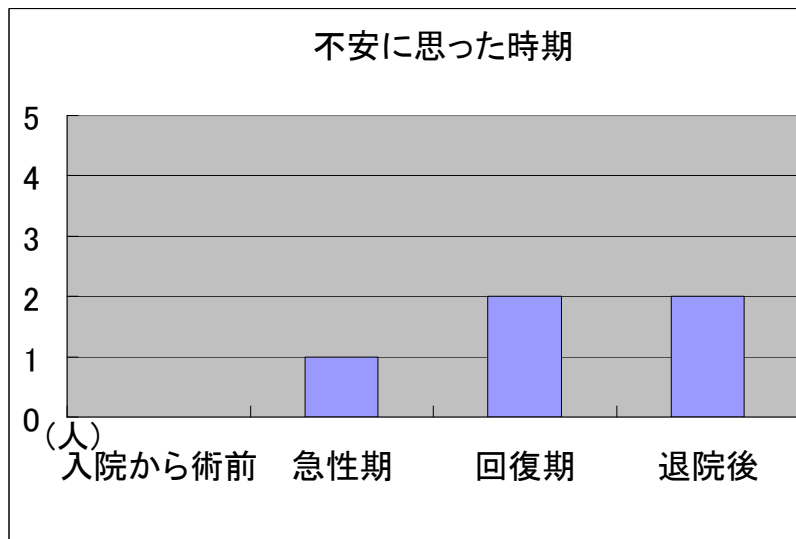
### 不安の有無



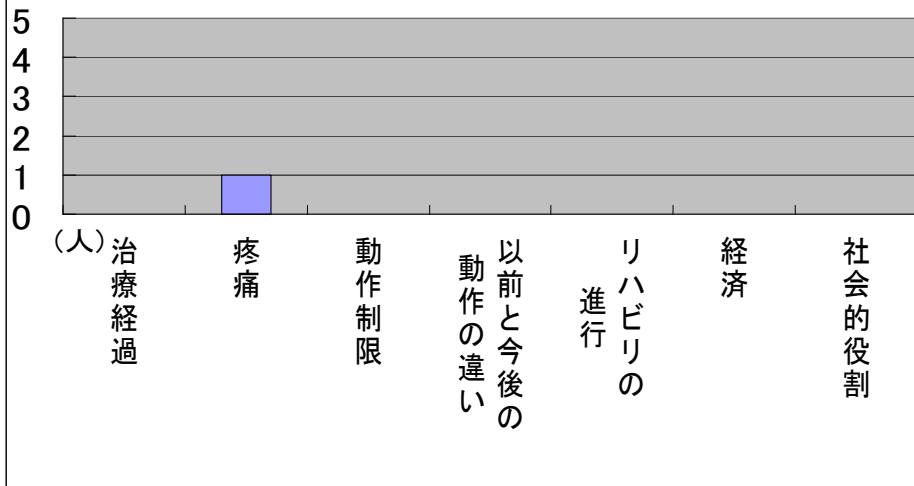
はいと回答した人5名 いいえと回答した人5名



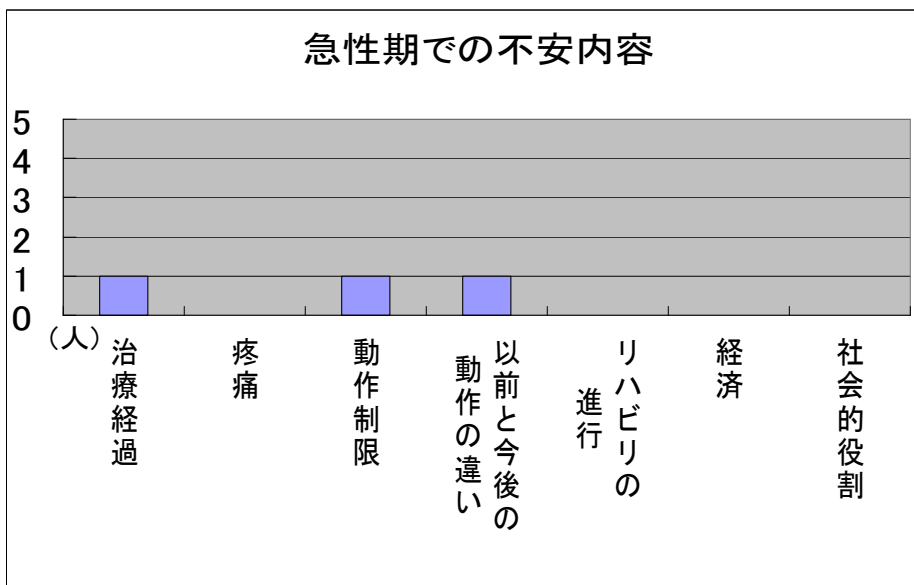
一番不安があったのはどの時期ですか？



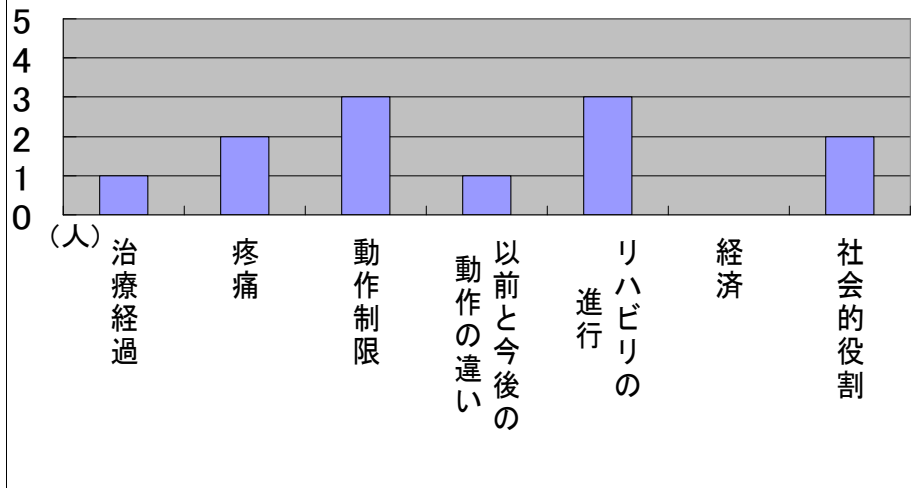
### 入院から術前での不安内容



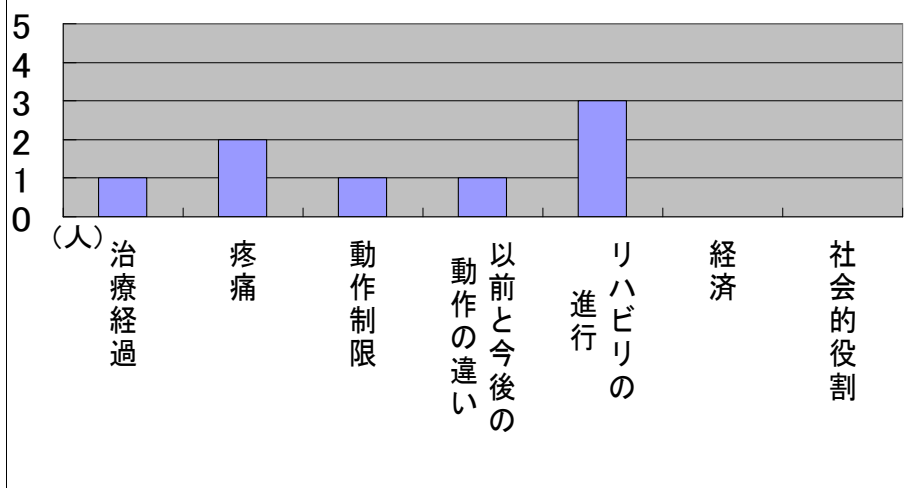
### 急性期での不安内容



### 回復期での不安内容



### 退院後での不安内容





## 感じた不安は解決することができましたか？

はいと回答したのは3名であった。

解決できた理由は……。

リハビリの効果を実感したこと

2名

話を聞いてもらったこと  
その都度説明があったこと

1名



## 考察

### 不安を解決できた理由

リハビリの効果を実感したこと

話を聞いてもらったこと  
その都度説明があったこと

治療スケジュールと治療経過の  
理解度を高める関わりが  
求められる



## 考察

小島は、不安を伴った患者は・・・。

## 欲求

自分の状態が知りたい・感情表出したい  
受容、慰め、支持がほしい  
安楽を保障してほしい

欲求の満足は・・・。

成長に向けて患者の不安に取り組む力を強くする



## 考察

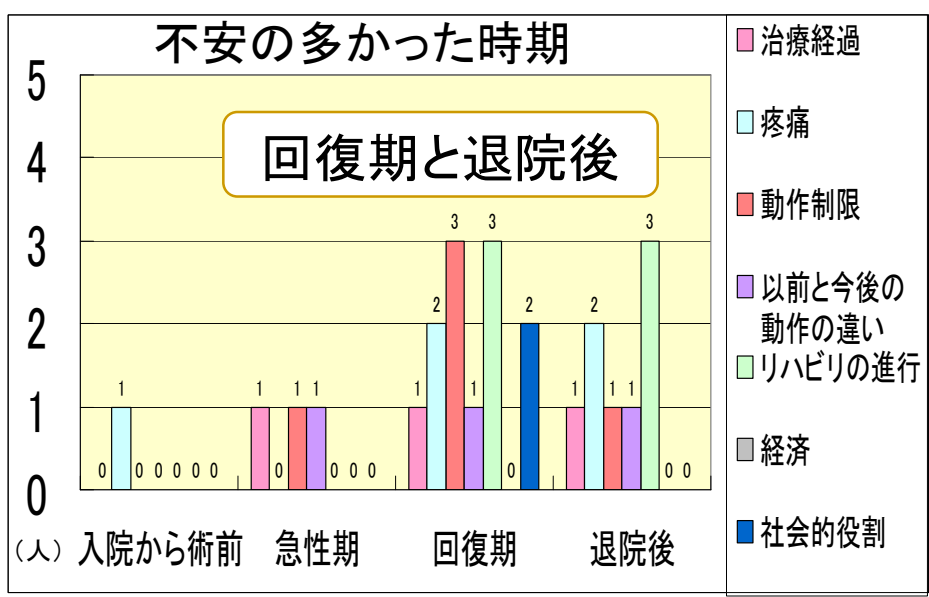
不安の有無を患者に聞き、  
その都度不安解決のための指導や  
傾聴をしていくことが大切。



不安が軽減

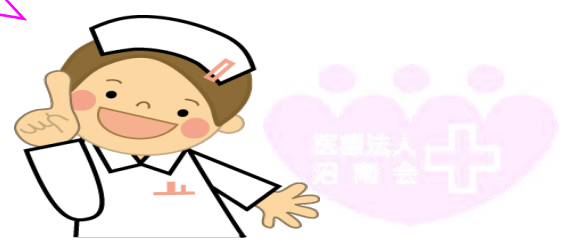
より前向きな状態で退院していくことができるの  
ではないかと考える





## 考察

回復期に重点をおき  
介入していくことが大切である



---

## 結論

### 1) 解決したという結果より

治療スケジュールと治療経過の理解度を高める関わりが不安の軽減につながると考える。

### 2) 不安の多かった時期である回復期に

重点をおき傾聴や不安軽減のための関わりをすることでより前向きな状態で退院することができると思う。



---

ご清聴ありがとうございました。

